

当面のスローガン

- あいつぐ差別糾弾闘争を強化
- 全学校で人権・同和教育を!
- 全自治体で同和行政を!
- 西日本夏期講座の成功を!



解放新聞社山口支局

〒753-0074 山口市中央1-5-3  
 TEL 083-923-2303  
 FAX 083-921-1919  
 http://y-kaihou.jp  
 編集発行人 松岡 広昭

解放共闘

# 連合が公正採用の実態調査 厳しい実態が明らかに

部落解放中央共闘会議の総会が、2月27日東京の全水道会館で行われた。総会での記念報告では、磯部行雄・連合連帯活動局長より、

連合が就職差別撤廃の取り組みの一環として、昨年実施した「採用選考に関する実態把握のアンケート」報告がおこなわれた。

民間企業は、新規高卒者で14%、新規大卒者22%が統一応募紙を使用していないことが明らかになった。これまで採用時に

戸籍謄本などを提出させ、身元調査に利用されてきた実態があり、現在では原則禁止されている。しかし、民間企業では18%、自治体・公営

企業では26%が戸籍謄本を提出させていた。このように、就職差別につながる恐れのある情報収集は禁止されているにも関わらず、まだまだ徹底されていない現実が明らかになった。

続けて、解放同盟中央本部の西島藤彦さんより「統一応募用紙違反の現状と課題」とした報告がおこなわれた。

西島さんからは、近年各地で続発する就職差別、統一応募用紙違反などの具体的な事例が紹介された。このような違反事例をなくすための大きなポイントとなるのが受験生からの「受験結果報告書」の取り組みである。

東京都や大阪府、福岡県、愛知県などは教育委員会が受験後、面接などにおいて差別的な質問など

を訴えた。開会行事の後、各教団の実践報告が行われた。山口県神社庁の友田光さんから「触穢廃止令」と『穢れの伝染性』と題した報告がされた。平安時代に制定さ

れた『弘仁式』以来の千年以上続いた法制度としての穢れは、1873年(M6)に出された「触穢廃止令」(太政官布告第61号)によって、はつきりと否定されていることを確認し、神社神道人として「穢れ意識」(穢れを忌む考え)・触穢思想により差別を正当化させる論理を助長させない姿勢と論理が報告された。

西島さんからは、近年各地で続発する就職差別、統一応募用紙違反などの具体的な事例が紹介された。このような違反事例をなくすための大きなポイントとなるのが受験生からの「受験結果報告書」の取り組みである。

厚生労働省の調査では、愛知県は06年度は24件だったが、県教委が受験報告書を作成し集約し始めると、07年度は101件にもなった。同様に福井県も、06年度は16件だったのが、県教委が把握



藤中さんの記念講演ではワークショップを入れた研修が行われた

はじめに、山口同宗連の吉川俊雄議長より開会あいさつがあり、貧困固定化や格差拡大社会だからこそ「人権、部落問題の取り組みなくして宗教者たり得ない」という同宗連の原点に振り返ること

を訴えた。開会行事の後、各教団の実践報告が行われた。山口県神社庁の友田光さんから「触穢廃止令」と『穢れの伝染性』と題した報告がされた。平安時代に制定さ

れた『弘仁式』以来の千年以上続いた法制度としての穢れは、1873年(M6)に出された「触穢廃止令」(太政官布告第61号)によって、はつきりと否定されていることを確認し、神社神道人として「穢れ意識」(穢れを忌む考え)・触穢思想により差別を正当化させる論理を助長させない姿勢と論理が報告された。

それらの課題に対して、視聴覚教材を自作作成し、それを活用しながら、受講者の内的、自発を促す学習を進めてきた。2本の実践報告の後には、「人権意識の高揚をめざして」人間関係づくりを通して」と題して、山口県教育委員会の藤中俊臣さんより記念講演が行われた。

すると07年度には84件にもなった。ちなみに山口県の場合は、06年度9件、07年度1件という結果。これは以前の福井県や愛知県と同様に、それだけ実態を把握できていないことを意味する。

今後、山口労働局や県教委に対して、公正採用選考のための「受験報告書」の取り組みを実施することを求めていく。

山口同宗連

# 同宗連の原点に返り 反差別の実践を

山口県人権・同和問題に取り組む宗教者連帯会議第22回研修会が、2月20日山口県神社庁で開催され、山口同宗連の会員70名が参加し、各教団の実践報告と記念講演が行われ部落解放・人権確立に向けた学習を深めた。

部)を対象にした人権学習会を毎年実施し、自主教材「私たちの人権問題」を作成して、研修に活用してきた。研修を進めるなかで、テキスト中心に確認する「知識重視型」の限界などの課題などが明らかになった。

それらの課題に対して、視聴覚教材を自作作成し、それを活用しながら、受講者の内的、自発を促す学習を進めてきた。2本の実践報告の後には、「人権意識の高揚をめざして」人間関係づくりを通して」と題して、山口県教育委員会の藤中俊臣さんより記念講演が行われた。

**第34回部落解放・人権西日本夏期講座**  
**2009年7月9(木)、10(金)**  
 山口県スポーツ文化センター (山口市維新公園4-1-1)

|                      |   |
|----------------------|---|
| 1日目 13:00~16:30      | 2日目 9:00~12:30  |
| 「猿回し復活にかけた思い」 村崎太郎   | 「部落問題は、いま～若者からのメッセージ」<br>部落出身の青年たち<br>コメンテーター 組坂繁之(部落解放同盟中央執行委員長)<br>コーディネーター 川口泰司(山口県人権啓発センター) |
| 「格差拡大社会がもたらすもの」 斎藤貴男 | 「差別をなくす社会システムのあり方」北口未広  |
| 「明治維新の地・萩の被差別民」      |   |
| 参加申込 部落解放同盟山口県連まで    | 規模 4000名 参加費 3500円  |